

サマリー

韓国の天然ガス需給動向及び需給計画

戦略・産業ユニット 国際動向・戦略分析グループ 主任研究員 安 泰勲

2007年に約2,600万トンのLNG(液化天然ガス)を海外から輸入した韓国は日本に次ぐ世界第2位のLNG輸入国家であり、韓国特有の冬高夏低*の需要パターン、ガス産業構造再編に係る長期輸入契約の遅延、世界的なLNG需要の急増などの国内的な諸問題によってここ数年間相当な天然ガス需給逼迫を経験している。一方、地理的、文化的に近い日韓両国は天然ガス消費量の大部分を輸入に依存しているという点、輸入天然ガスの全量がLNGの形態であるという点、供給量不足によってスポット取引による輸入量が増加しているという点など、天然ガス産業においても多くの面で類似性を持っており、最近では両国の需給安定化のためにガス会社及び電力会社間においてLNGカーゴスワップを行うなど、非常に緊密な関係に発展している。2006年12月、産業資源部長官(当時)は第8次長期天然ガス需給計画を発表した。同計画は2006年から2020年までの天然ガスの需給見通し、輸入計画、供給設備建設および投資計画、天然ガスの需給安定化対策などを含んでいるが、2020年の天然ガス需要は2007年実績を基準とすると年平均3.5%増加し、4,035万トンに達すると見込まれている(第9次長期天然ガス需給計画は2008年12月に発表する予定)。

なお、今後の韓国の天然ガス需給バランスに影響を及ぼす主要ポイントとしては、(1)国際LNG市場の需給動向、(2)ガス産業構造再編の成否及び進展度合い、(3)貯蔵設備の確保、(4)発電設備の適時建設の可否、(5)冬期気象状況、(6)国内景気の回復及び油価とLNGの相対価格、などが挙げられる。

お問い合わせ : report@tky.ieej.or.jp

*夏期には需要が減少して、冬期に需要が増加する現象